



十和田乗馬倶楽部
会長 中野渡 利彦さん

体験

馬との 触れ合いを 大切に

十和田市は馬の産地として、旧陸軍軍馬補充部が置かれるなど馬との関わりが深い地です。そのため、わたしは、馬に対する思いが人一倍あります。

1992年に開催されたバルセロナのパラリンピックで、障害者が乗馬を練習する姿を見て、地元の子どもたちに体験してほしいと思い、十和田乗馬倶楽部を設立しました。

今では、乗馬や農業体験をするために、首都圏の高校生が修学旅行で利用したり、日本の文化を学ぶために外国人が訪れたりしています。

乗馬は、癒し効果があるといわれ、



十和田湖でのホーストレッキング

自然の中で馬に乗ることは全身運動につながります。全身運動といっても心臓に負担がかからないので健康づくりに役立ちます。

また、馬とのかかわりを通して不登校の子どもを更生させる効果もあります。そこで、北里大学と連携し、健康乗馬、教育乗馬として誰でも体験でき、世界の統一基準となるような独自のマニュアルを作っています。

春と秋に開催される流鏝馬やぶさめは、わたしどもが運営し、県内外から多くの観光客が訪れています。このように、馬は地域の活性化にも役立ちます。

ホーストレッキングを通して、農村と都市との違いや自然と触れ合う体験型メニューを定着させ、新たな観光振興につなげていきたいと思えます。

交流

地域の魅力を 分かち合う



十和田農業体験連絡協議会
会長 東 寛治さん

十和田農業体験連絡協議会は、都市と農村の交流を積極的に推進し、観光客の誘致促進を目的に設立されました。市内の46農家が加入し、農業や農家の暮らしを体験してもらうために、県内外の小・中学校や高校の修学旅行生を受け入れています。

農業体験による交流は観光旅行とは違い、農家の暮らしや農家の人々との交流を楽しむもので、これまでに70人以上を受け入れました。今年も台湾の修学旅行生40人も受け入れ、さらに活動の幅を広げています。

今、この活動が注目されはじめ、十和田市のグリーンツーリズムPR用DVDも製作されています。

今後は、国内のかたに限らず、海外のかたも積極的に受け入れていきたいと考えています。そのためにも、受け入れ農家の戸数を増やし、一度に200人規模の受け入れ態勢を実現することが目標です。



ネギの皮むき体験

これまで、田植えやネギ、ニンニクの収穫を体験してもらいました。都会の子どもたちにとって、実際に野菜を収穫することは、初めての経験なのかもしれません。

スーパーで規格の整った野菜しか見ることがない都会の子どもたちは、虫が付いている野菜にいつも驚くので、農薬のことや食の安全性などを、丁寧に教えています。

自分が収穫した野菜は格別のように「おいしい」といって喜んで食べています。これからは子どもたちとの出会いを楽しみにしています。



久野 礼子さん・文夫さん(深持地区)

受け入れ農家の声